事例No.	2716
公表年度	R5
団体の属性	町村
団体名	岩手県紫波町

事例区分	地域活性化

タグ	・公共施設活用 ・新たな政策手法の確立・活用 ・関係人口

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

岩手県紫波町

出典

令和２年度ふるさとづくり大賞事例集

優　秀　賞

岩手県紫波町

地域経営改革　　まちなか再生　　その他（公民連携）

概　　要

紫波町は、JR紫波中央駅前の長年活用されてこなかった町有地10.7haを中心とした都市整備を図るため、平成21年（2009年）3月に議決した紫波町公民連携基本計画に基づき、平成21年度から紫波中央駅前都市整備事業（オガールプロジェクト）を開始した。この事業では、町有地の活用、老朽化した庁舎の建設、図書館の新設など、町が抱えていた行政課題に公民連携手法を取り入れ、町の財政負担を最小限に抑えながら公共施設と民間施設等の立地による複合的な経済開発を行っており、補助金に頼らないまちづくりを進めている。



【図書館が入居する官民複合施設
オガールプラザ】

評価された点

・将来性に期待。
・オガールプロジェクト。官民連携の公共事業の成功例。ただし、大規模なので、必ずしも多くのモデルとはなりえないかもしれない。しかし、逆に言うと、小規模町村でも資源を集中すればこうしたことができるという好例であるといえる。
・駅前開発を住民参加によるビジョン構築と、民間資金の活用、専門家との連携を通じて創りあげ、町の社会経済活動の拠点ともいえる空間を明確な地域ビジョンに基づいて構築した点は高く評価できる。更なる展開に向けた取り組みも推進されている。



【賑わうオガール広場】

・紫波町の取り組みは、わが国における官民連携の仕組み（稼ぐインフラ）としても代表的な成功例ということができるだろう。このプロジェクトを担った中核人材もまだ年齢的に若いので、さらなる発展が期待されるよい事例といえる。
・【先進性】これまでの公共調達手段に替わる民間主導型公民連携事業。【継続性】①来場者数の伸び、不動産価格上昇。②返済資金（賃料）確保の見通し。③持続可能な産業の創出。【発展性】他地域への波及（全国からの視察）。【自主性】補助金に頼らず市場から資金調達し稼いでいく仕組みの構築。【連携】①町とオガール紫波株式会社が地域の様々な主体と協働。②福祉、農業、NPO、構成事業者、マスコミ等の相互理解。③農家との連携（マルシェ）。【効果】①定住・交流人口増加。②不動産価格上昇。③町財政への好影響（賃料収入）。
・補助金に頼らないまちづくりであり公民連携の先駆的事例である。施設づくりも民間が入居予定業者へのヒアリングを行い、そこから資金計画を積み上げオーバースペックにならないようにしている。また、図書館がここに入居するなど様々なイノベーションが起きている。